

<b>学校教育目標</b>	「共に高め合い、生きる喜びを拓いていく子を育てます」				
	○自ら学び自ら考える子を育てます。(知) ○礼儀や規律を重んじ、他人を思いやる子を育てます。(徳) ○豊かな心と丈夫な体をもつ子を育てます。(体) ○地域や人やものを大切に、ともに生きる子を育てます。(公) ○いろいろな社会の変化に柔軟に対応できる子を育てます。(開)				
<b>学校概要</b>	創立 43 周年	学校長 大塩 啓介	副校長 斎藤 忠雄	2 学期制	一般学級: 23 個別支援学級: 5
	児童生徒数: 769 人 主な関係校: 上の宮中学校・寺尾中学校・馬場小学校・菊名小学校・旭小学校				

<b>教育課程全体で育成を目指す資質・能力</b>	<b>上の宮中ブロック</b>	<b>小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</b>
・自己有用感 ・主体性 ・コミュニケーション力	上の宮中学校 馬場小学校 獅子ヶ谷小学校 菊名小学校	・自分の可能性を信じ、何事にも全力で取り組む子ども ・自分の夢を情熱をもって語れる子ども ・人とのかかわりを大切に、他を思いやる気持ちのある子ども ----- 【5月】情報交換会・課題研究会 【8月】小中合同ブロック研修会 【10月】小中交流会(学校説明/部活動紹介) 【3月】情報交換会・課題研究会

<b>中期取組目標</b>	○全教職員が学校経営に主体的に参加し、子ども一人ひとりが安心して豊かに学び育つ学校にします。 ・学ぶ楽しさを実感できる授業づくりを推進し、主体的な態度を大切にしながら学力を向上させます。 ・一人ひとりが自己有用感をもち、「全員を仲間と認め、仲間を大切に、仲間と協力する」集団を作ります。 ・地域の豊かな自然環境を生かした教育活動の充実に努め、体験活動を通して、地域の「人」とのつながりを意識し、地域を愛する心を育てます。 ・家庭、地域、関係機関との連携を図り、社会に開かれた学校づくり・安全安心の学校づくりを進めます。
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
<b>生きてはたらく知</b>	①自ら問題を見つけ、そこから生まれる課題解決に向けて自分の考えをもち表現することができる授業づくりを行い、主体的に学びに向かう子どもを育てていく。 ②情報機器を活用して、学習に生かす力を高める指導を行う。
<b>豊かな心</b>	①挨拶運動に取り組み、挨拶の良さを実感させて、居場所が感じられる雰囲気づくりをする。また、自尊感情を高める取組を継続して行う。 ②授業で多様な価値観を認め合い、多様性を認め合える素地を培う。 ③地域の方々とふれあい、地域愛を育てる学習を展開する。 ④課題意識を持たせて授業に入り、道徳的価値を把握して実践しようとする児童の意識を高める。 ⑤効果的な職員研修により、職員の人権感覚を研いで維持する。
<b>健やかな体</b>	①各学年、単元の系統性を大切に、昨年度できなかった部分も補填しながら、運動をする楽しさを味わえる学習を展開する。 ②子どもたちが自分自身の体調に気を配り適度に体を動かさせたり、制限された環境の中で、できることを子どもたち自身で考えたりできるように、環境や場を整える。 ③給食委員会が、日々の献立やその日の給食に関わる情報を各クラスに発信し、食への関心を高める。
<b>児童指導・特別支援教育</b>	①配慮を要する児童の具体的な支援について、4月より年間3回と、大きな行事(運動会等)の前に全職員で共有する機会を設けられるよう心掛け、指導に生かすとともに、どの職員にも共通理解を図り、同じ対応ができるようにする。 ②通級指導教室、特別支援教室で指導を受けている児童及び、取り出し指導を行っている児童の個別の教育支援計画と個別の指導計画を保護者と話し合いながら作成していく。
<b>望ましい集団活動</b>	①できることが明確になってきたので、人と人とのつながりを増やした授業を進める。 ②今年度の活動内容で始めていき、他の委員会とのつながりでの活動も取り入れられるようにしていく。 ③生活のしかたにも慣れてきたので、活動が制限されている中で、できるかどうかを見極めながら集団活動を実施していく。
<b>自分づくり教育 キャリア教育</b>	①地域の豊かな自然教育を生かした教育活動の充実に努め、体験学習を通して、地域の「人」とのつながりを深め、地域のよさを実感できるようにする。 ②「横浜の時間」や生活科を中心に地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で一人ひとりの自己有用感を高める。 ③学年に応じて、地域住民や企業がかかわる学習活動を年間計画に位置付け、学ぶことや働くことの意義を考え、働いている方の思いや願いを知ることができるようにする。
<b>環境教育</b>	①体験学習や地域の「人」とのつながりを通して、豊かな自然環境を生かした教育活動の充実に努める。 ②安全訓練の中に外部の方からの指導講評や体験を取り入れ、安全な環境づくりへの意識を高める。 ③系統的な指導ができるように学校安全計画を作成し、学年ごとに計画的に安全教育を実施する。 ④ごみの分別チェック、毎日の牛乳パックリサイクル活動などを通して、環境保全の意識を高める。
<b>地域連携・学校運営協議会</b>	①家庭、地域、関係機関との連携を図り、地域の教育力を効果的・効率的に活用し、より豊かな教育活動へとつなげる。(授業サポート、見守り隊、情報教育) ②「学校だより」のほか、「学校HP」の内容を充実させ、学校の情報発信に努める。 ③教育懇話会で各地域の代表者の方々と学校運営協議会の意義と役割について共有し、2022年度の協議会設置に向けた人選と準備を行う。
<b>いじめへの対応</b>	①学年研で、積極的に専任を交えていじめ防止に向けての情報共有を行う。その情報を児童指導部で共有し、専任が取りまとめ、対応にあたる。 ②毎月行われる「いじめ防止対策委員会」において、各学年の情報を、学年、学校全体で共有し、対応にあたる。 ③「子どもの社会的スキル横浜プログラム」を、専任が中心となり、学年や学級で積極的に活用できるようアドバイスする。 ④いじめ防止アンケートを年2回行い、いじめの未然防止及び、早期発見、解決に役立てる。
<b>人材育成・組織運営 (働き方改革)</b>	①ミドルリーダーがメンターチームの運営や研修に携わり、若手教職員とミドルリーダーの育成を図る。 ②組織を改善し、校務分掌の充実と効率化を図る。全教職員が組織運営に携わることで人材育成を進めていく。 ③月1回の教務会、職員会議、週1回の学年研を行い、組織的な学校運営を行う。 ④午前5時間40分授業を継続し、児童の学習効果の向上と職員の働き方改革を進める。 ⑤会議と議題の精選、教材の共有化を図り、教職員が働きやすい環境を整える。